

沖縄県における平成 20 年の毒蛇咬症

沖縄県衛生環境研究所

衛生科学班 松田聖子・寺田考紀・神谷大二郎・勝連盛輝

I はじめに

沖縄県における平成 20 年（2008 年）の毒蛇咬症患者はハブ咬症 65 件、ヒメハブ咬症 8 件、サキシマハブ咬症 21 件、タイワンハブ咬症 1 件の計 95 件であった。これは昨年に引き続き 100 件を下回った。

今年は無ミヘビと思われる咬症が 1 件確認された。1990 年以來 18 年振りとなる。それ以外のガラスヒバアやタイコブラ等のハブ属以外の毒蛇による咬症事故は確認されなかった（表-1、図-1）。ハブ咬症による死亡者はなかった。また名護市で定着が確認されているタイワンハブによる咬症は確認できなかった。

最近 10 年間の傾向をみると、ハブ単独では 80 件前後から 60 件前後と約 25% 減となっている。サキシマハブ咬症は 20~30 件前後推移し、ほとんど変わっていない。ヒメハブ咬症も 10 件前後を推移している。タイワンハブは 05, 06, 08 年に咬症被害が報告されている。四種の合計では 130 件台から 100 件ほどとハブの減少に対応して減少している。

療を受けた病院より所管の保健所を通じて、毎月沖縄県薬務衛生課へ「ハブ咬症患者取扱報告」として報告される。さらに、診療にあたった病院が「ハブ咬症患者調査票」に基づき、受傷に関する詳細を患者から聞き取り、保健所を通じて衛生環境研究所に郵送する。ハブ咬症患者調査票には記入漏れがある場合が多く、それは直接咬症患者本人や病院に問い合わせて内容を補完した。しかし連絡の取れない患者もあり、充分とはいえない。

なお、被咬者が毒蛇の種類を確認していない場合には、八重山地域（石垣市、竹富町）では実害のある毒蛇はサキシマハブだけなので、サキシマハブとして集計した。一方沖縄諸島ではハブもしくはヒメハブの可能性が最も高く、また糸満ではサキシマハブ、名護市周辺や恩納村山田周辺ではタイワンハブの可能性も否定できない。だが、このようなヘビの種類が特定できない事例は、最も可能性の高いハブ咬症として集計した。

調査にあたって各抗毒素常備施設と各保健所の職員の方々ならびに、安井美和、我喜屋奈々の各氏に大変お世話になりました。厚くお礼を申し上げます。

II 調査方法

沖縄県内で発生したハブ咬症による患者は治

表-1 最近10年間のハブ類咬症発生状況

年	ハブ			サキシマハブ			ヒメハブ	タイワンハブ	計	
	件数	死	受傷率	件数	死	受傷率			件数	件数
99	81	1	0.065	27		0.57	7		115	1
00	82		0.066	36		0.76	17		135	
01	61		0.050	30		0.62	6		97	
02	54		0.046	32		*0.62	7		93	
03	63		0.049	23		*0.42	7		93	
04	43		0.035	22		*0.37	3		68	
05	67		0.054	26		*0.49	13	2	108	
06	62		0.049	30		*0.54	10	2	104	
07	61		0.048	27		*0.45	8		96	
08	65		0.051	21		*0.41	8	1	95	
計	639	1	0.051	274		0.52	86	5	1004	1

受傷率:人口1000人あたり受傷件数
*八重山諸島における咬症件数/八重山諸島人口×1000

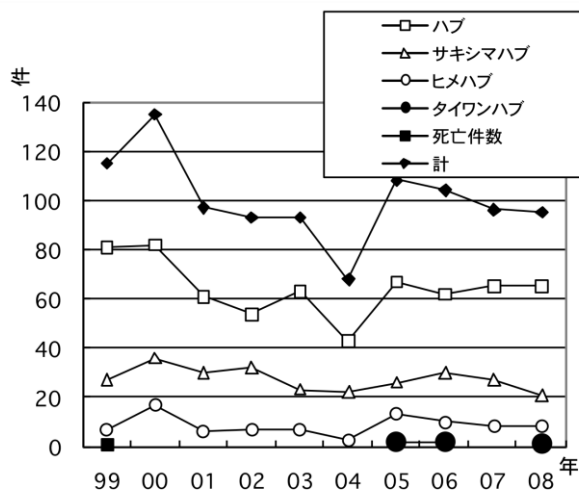


図-1 最近10年間のハブ類咬症発生状況

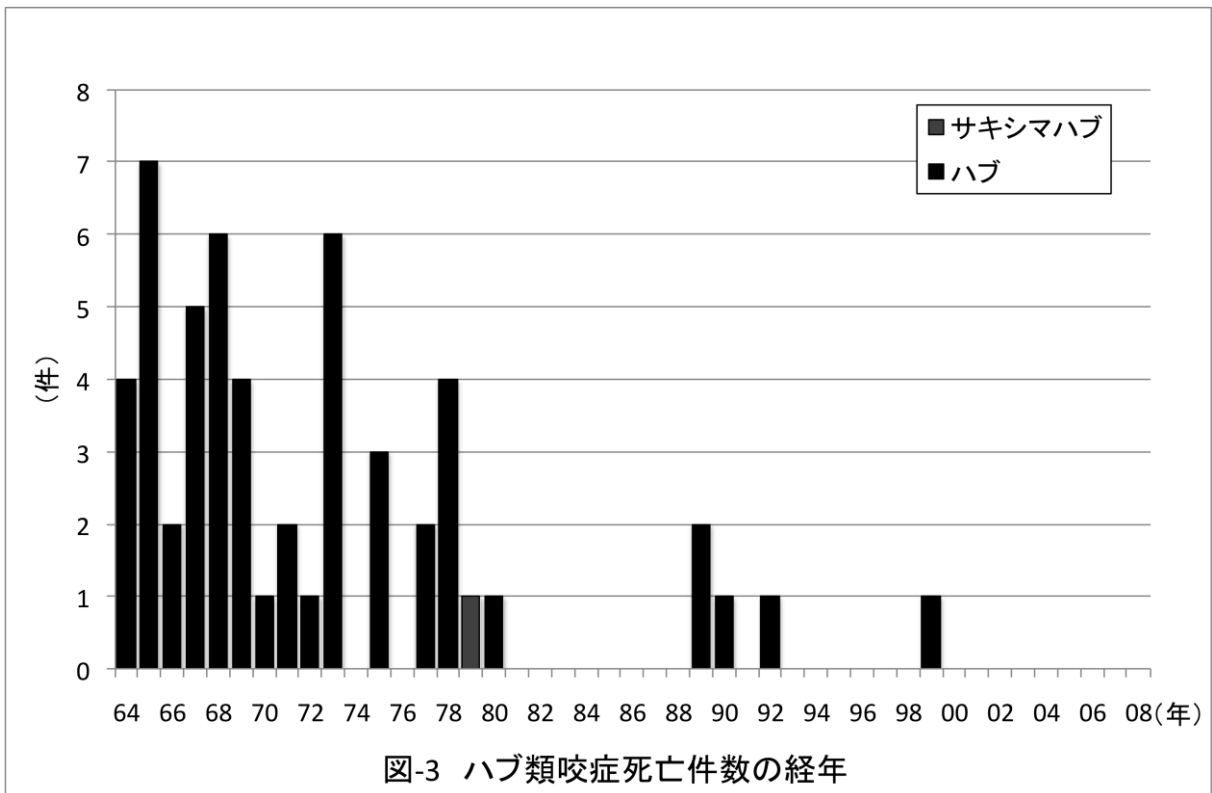
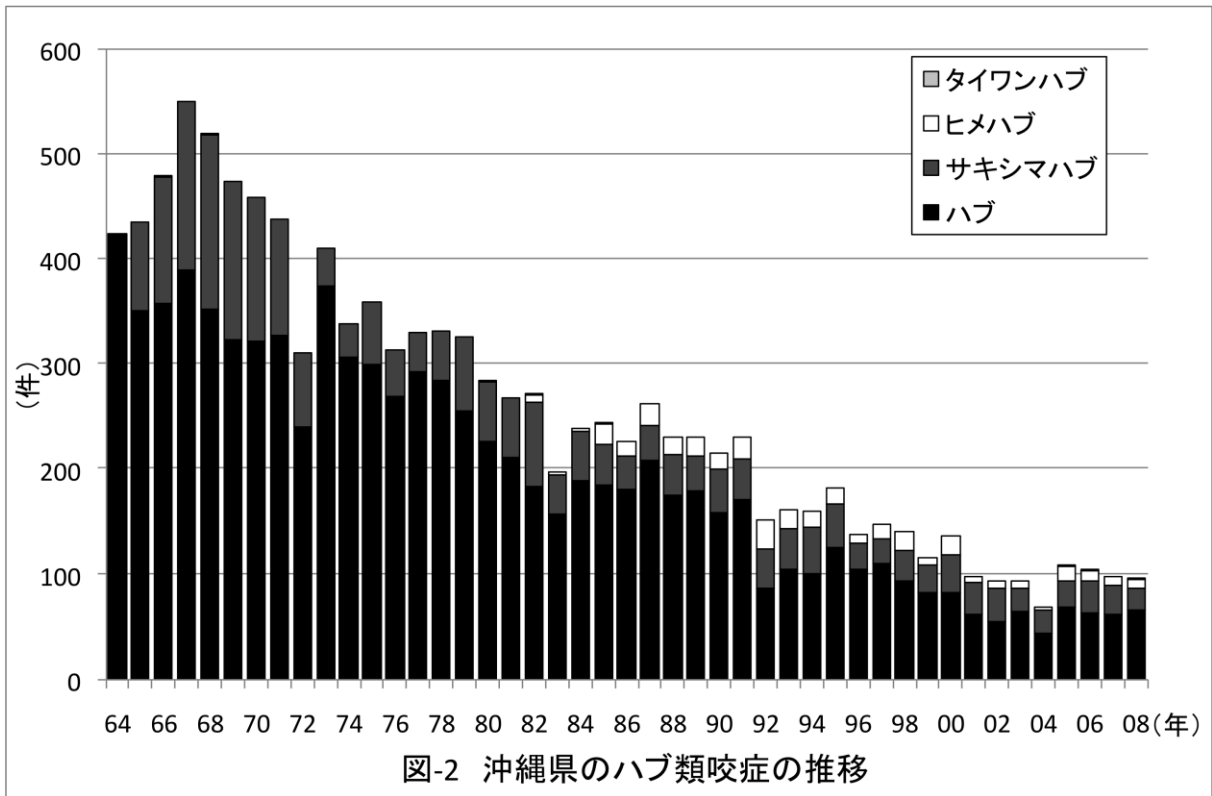


表-2 沖縄県の毒蛇咬症の推移

種年	ハブ 死亡 件数	サシマ ハブ 死亡 件数	ヒメ ハブ	タイワン ハブ	ウミヘビ	コブラ	ガラス ヒバ		
64	424	4							
65	350	7	85						
66	357	2	121	1					
67	389	5	160						
68	351	6	167	1					
69	323	4	150						
70	321	1	137						
71	326	2	111						
72	239	1	71						
73	374	6	36						
74	306		31						
75	299	3	60						
76	268		45						
77	292	2	37						
78	283	4	48			1			
79	254		71	1					
80	226	1	56	1		1	1		
81	210		57						
82	183		80	7	1				
83	156		37	4					
84	188		47	3					
85	184		38	21	1				
86	180		31	14					
87	208		33	21					
88	174		39	17					
89	179	2	33	18		1			
90	157	1	42	15		2			
91	170		39	21					
92	86	1	37	28			1		
93	103		40	18					
94	100		44	15					
95	124		42	15					
96	104		25	8					
97	109		23	14					
98	93		28	18					
99	81	1	27	7					
00	82		36	17					
01	61		30	6					
02	54		32	7					
03	63		23	7					
04	43		22	3					
05	67		26	13	2				
06	62		30	10	2				
07	61		27	8					
08	65		21	8	1	1			
計	8729	53	2375	1	346	7	5	2	1

報告書用

表-3 最近10年間の市町村別毒ヘビ咬症件数

1. ハブ咬症

年	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	計	
国頭村	3	6	2		2	1		6	2	1	23	
大宜味村	1	1	2	1	1	1		1		3	11	
東村		2			1	1	1			1	6	
今帰仁村	4	2		2	1		2	1	1	1	14	
本部町	5	2	1	3	2		1	5		2	21	
名護市	2	3	2	1	1	2	4		2	2	19	
伊江村	2				1						5	
伊平屋村											2	
宜野座村				1		1	1	1	1	2	7	
恩納村	1		1				1			1	4	
金武町	3		2	2		1	1	1	1	2	13	
石川市※	1	3	3		1	1						
具志川市※	5	5		1	4	2	12	6	7	11	86	
与那城町※		3	4	1	3	4						
勝連町※	3	1	1		3	1						
読谷村	3	3	1	1	4	3	5	2	3		25	
嘉手納町			1						1		2	
北谷町	2	1			1			1	2	1	8	
沖縄市	5	5	5		2	1	4	3	3	1	29	
北中城村	3	2	1	1	2		1			1	11	
宜野湾市			2		1	1	2	2	2		10	
中城村	1	1					1		1	4	8	
西原町	3	2	2	1		1		1	2	3	15	
浦添市	2	2	1	1			1	3	1		11	
豊見城市	1	2	5		1		1		2		12	
糸満市	7	6	10	6	8	7	6	2	2	7	61	
東風平町★	4	2	2	4	4	4	1		9	8	53	
具志頭村★		2	1	2	4	2	3					
玉城村☆	3	6	4	5	3	2	3					
知念村☆	1	3	1	2		1	2		8	8	4	83
佐敷町☆	1	4		1	2		2					
大里村☆	5	3		2	1	4	2					
南風原町	2	1		6	2		2	2	2	2	19	
与那原町		1	1				1				3	
渡嘉敷村		1	1					1			3	
仲里村*	1	2	2	5	5	2	6	3	3	7	41	
具志川村	3	2										
渡名喜村		1									1	
那覇市	4	2	3	5	2		1	4	5	4	30	
不明					1						2	3
計	81	82	61	54	63	43	67	62	61	65	639	

2. ヒメハブ咬症

年	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	計
沖縄県	7	17	6	7	7	3	13	10	8	8	86

3. サキシマハブ咬症

年	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	計
石垣市	23	23	22	23	13	16	22	20	19	16	197
竹富町	3	11	7	6	7	2	2	7	4	5	54
沖縄本島	1	2	1	3	3	4	2	3	4	0	23
計	27	36	30	32	23	22	26	30	27	21	274

4. タイワンハブ咬症

年	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	計
名護市							2	2			4
今帰仁村										1	1
計							2	2		1	5

5. ウミヘビ咬症

年	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	計
不明										1	1

★東風平町・具志頭村は2006年1月に合併して八重瀬町となったため、2006年以降のデータはまとめている

☆玉城村・知念村・佐敷町・大里村は2006年1月に合併して南城市となったため、2006年以降のデータはまとめている

※石川市・具志川市・与那城町・勝連町は2005年3月に合併してうるま市となったため、2005年以降のデータはまとめている

*：仲里村と具志川村は2001年に合併して久米島町となったため、2001年以降のデータはまとめている

III 調査結果

1. ハブ咬症

平成 20 年のハブ咬症件数は昨年より 4 件増加した（表-1）。市町村別に見ると、うるま市の 11 件が最も多く、次いで糸満市・久米島町の 7 件、中城村・南城市・那覇市の 4 件、大宜味村・西原町の 3 件、本部町・名護市・宜野座村・伊江村・伊平屋村・金武町・南風原町の 2 件、国頭村・今帰仁村・北谷町・沖縄市・北中城村・八重瀬町の 1 件でハブ咬症患者が発生しており、東村・恩納村・読谷村・嘉手納町・宜野湾市・浦添市・豊見城市・与那原町・渡嘉敷村・渡名喜村の 10 自治体でハブ咬症が 0 であった（表-4、図-4）。また、市町村不明が 2 件あった。うち 1 件はやんばるの山の中ということで、国頭村から名護市までの市村のいずれかであると考えられる。

市町村合併で単純な比較はできないが、最近 10 年間の累計では糸満市や南城市、うるま市を中心とする地域で多く咬症患者が発生している。

2. ヒメハブ咬症

ヒメハブ咬症は国頭村で 2 件、東村・本部町・名護市・宜野座村・うるま市・浦添市で 1 件であった。ただし、上記のハブ咬症件数の中には咬んだヘビの種類を確認できていない場合が過半数を占めている。その中にはヒメハブ咬症も含まれていると予想されるので、ヒメハブ咬症の実数はもう少し多く、その分ハブ咬症が少ないと考えられる。

なお、ヒメハブは毒牙が短く、毒量も少ないので、重症になることが少ない。ちなみに、これまでヒメハブ咬傷者の死亡記録はない。

3. サキシマハブ咬症

サキシマハブ咬症は、石垣市 16 件、竹富町 5 件と、前年より 6 件減少した。糸満市ではここ数年、サキシマハブによる咬症が毎年発生していたが、今年は確認されなかった。しかし、ヒメハブと同様、サキシマハブと認識できず、ハブとして

加えられている可能性も否定できない。糸満市のハブ類咬症被害の件数にほとんど減少が見られないのは、サキシマハブの影響も考えられ、被害拡大が懸念される。

サキシマハブもハブより毒が弱く、治療に際して血清を使わない事が多い。平成 20 年に血清を使用した患者は 1 名だった。

4. タイワンハブ咬症

タイワンハブによる咬症は今帰仁村で 1 件だった。

聞き取り調査によるとタイワンハブの目撃例も多いことから、今後も注意が必要である。

5. ウミヘビ咬症

18 年振りにウミヘビと思われる咬症が報告された。

発生した海岸は不明だが、那覇市内の病院を受診していることから、その付近での咬症と考えられる。

30 代の男性で、9 月 1 日の 19 時 20 分ごろ仕事で海にいるところ被害にあった。目撃はしていないが、おそらくウミヘビであろうということで、事故現場にて吸引を行ったあと、1 時間以内で病院へ搬送された。疼痛はあったものの、軽症で経口の抗生剤による治療のみで、入院せずその日のうちに帰宅した。

表-4 2008年受傷市町村別月別毒ヘビ咬症件数

ハブ咬症													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
国頭村		1											1
大宜味村								1	1		1		3
東村													0
今帰仁村						1							1
本部町			1	1									2
名護市							1			1			2
伊江村	1								1				2
伊平屋村							1		1				2
宜野座村											2		2
恩納村													0
金武町							1			1			2
うるま市					1		1	1	5	1	2		11
読谷村													0
嘉手納町													0
北谷町							1						1
沖縄市											1		1
北中城村									1				1
宜野湾市													0
中城村			1							3			4
西原町					1				2				3
浦添市													0
豊見城市													0
糸満市			1	1			1			2	1	1	7
八重瀬町						1							1
南城市			1	1		1	1						4
南風原町		1							1				2
与那原町													0
渡嘉敷村													0
久米島町			2	1	1		1			1	1		7
渡名喜村													0
那覇市		1			2					1			4
不明											1	1	2
計	0	3	4	5	6	4	7	2	8	16	6	4	65

ヒメハブ咬症													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
国頭村						1		1					2
東村								1					1
本部町										1			1
名護市											1		1
宜野座村											1		1
うるま市				1									1
浦添市			1										1
計	0	0	1	1	0	1	0	2	0	3	0	0	8

サキシマハブ咬症													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
石垣市	1	1	3	1	1		4				3	2	16
竹富町				1	2		1			1			5
計	1	1	3	2	3	0	5	0	0	1	3	2	21

タイワンハブ咬症													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
今帰仁村						1							1
計						1							1

ウミヘビ咬症													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
市町村不明										1			1
計										1			1

表-5 2008年 市町村別ハブ類受傷件数と人口千人当り受傷率

順位	受傷市町村	ハブ	ヒメ	サシ	タイ	計	順位	受傷市町村	受傷件数	受傷率
		ハブ	ハブ	ハブ	ハブ					
1	石垣市			16		16	1	伊平屋村	2	1.4124
2	うるま市	11	1			12	2	竹富町	5	1.1976
3	糸満市	7				7	3	大宜味村	3	0.9177
3	久米島町	7				7	4	久米島町	7	0.7997
5	竹富町			5		5	5	宜野座村	3	0.5768
6	中城村	4				4	6	東村	1	0.5643
6	南城市	4				4	7	国頭村	3	0.5641
6	那覇市	4				4	8	伊江村	2	0.4088
9	国頭村	1	2			3	9	石垣市	16	0.3429
9	大宜味村	3				3	10	中城村	4	0.2387
9	本部町	2	1			3	11	本部町	3	0.2132
9	名護市	2	1			3	12	今帰仁村	2	0.2125
9	宜野座村	2	1			3	13	金武町	2	0.1844
9	西原町	3				3	14	糸満市	7	0.1243
15	今帰仁村	1			1	2	15	うるま市	12	0.1050
15	伊江村	2				2	16	南城市	4	0.1015
15	伊平屋村	2				2	17	西原町	3	0.0871
15	金武町	2				2	18	北中城村	1	0.0630
15	南風原町	2				2	19	南風原町	2	0.0574
20	東村		1			1	20	名護市	3	0.0494
20	北谷町	1				1	21	八重瀬町	1	0.0392
20	沖縄市	1				1	22	北谷町	1	0.0367
20	北中城村	1				1	23	那覇市	4	0.0128
20	浦添市		1			1	24	浦添市	1	0.0092
20	八重瀬町	1				1	25	沖縄市	1	0.0077
26	恩納村	0				0	26	恩納村	0	0
26	読谷村	0				0	26	読谷村	0	0
26	嘉手納町	0				0	26	嘉手納町	0	0
26	宜野湾市	0				0	26	宜野湾市	0	0
26	豊見城市	0				0	26	豊見城市	0	0
26	与那原町	0				0	26	与那原町	0	0
26	渡嘉敷村	0				0	26	渡嘉敷村	0	0
26	渡名喜村	0				0	26	渡名喜村	0	0

※市町村不明2

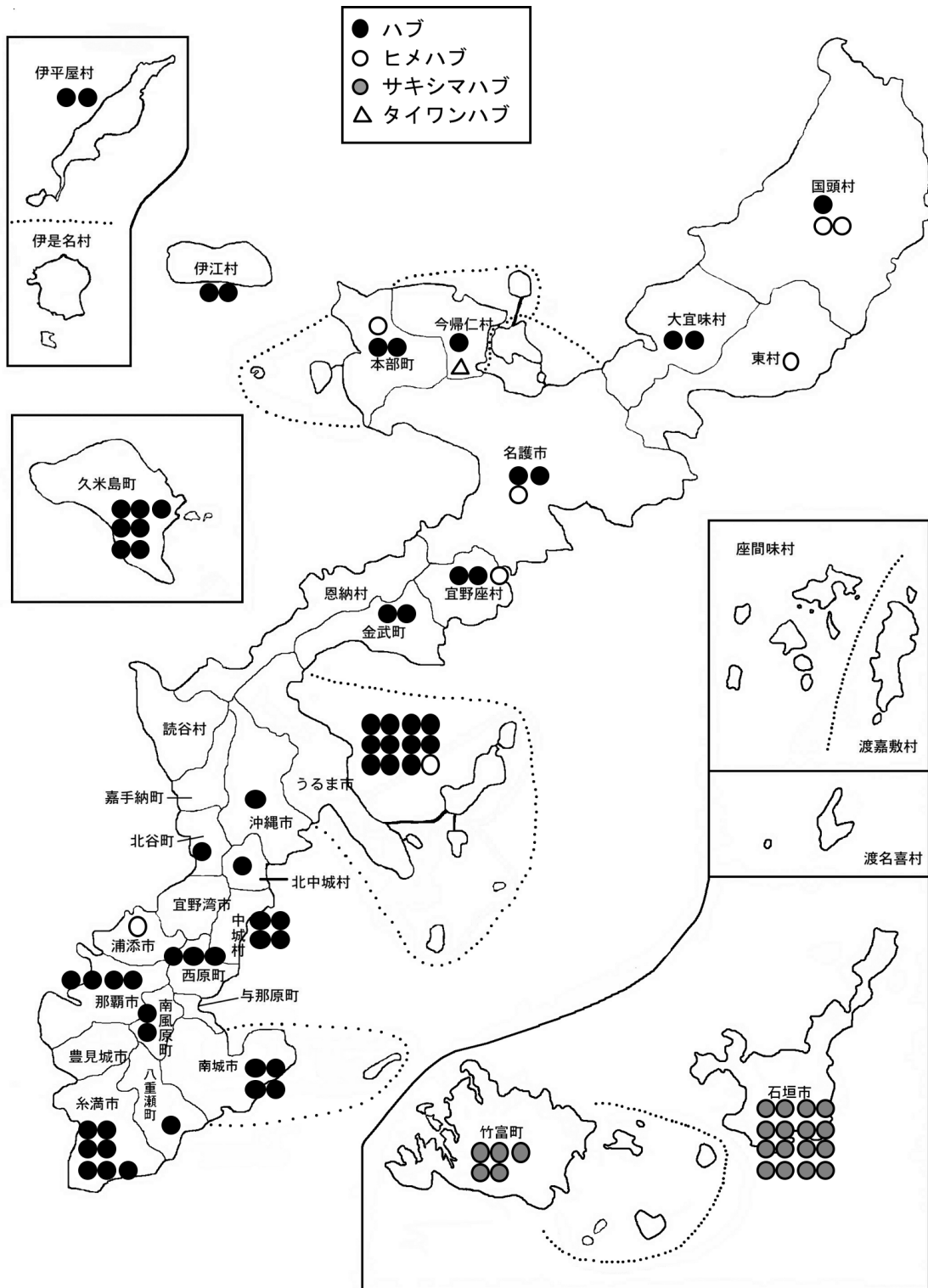


図-4 2008年 市町村別ハブ類咬症件数

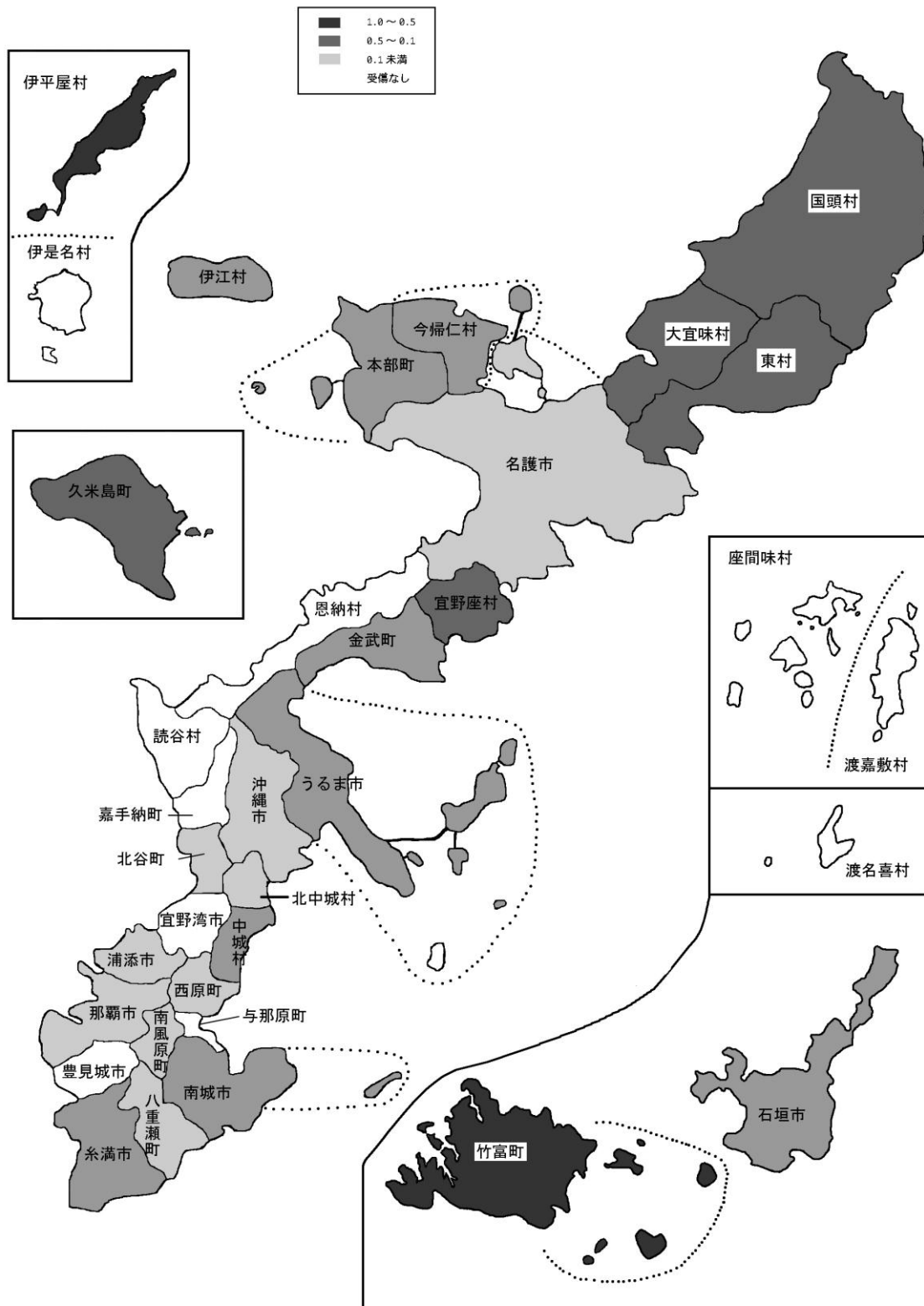


図-5 2008年 市町村別人口千人当たりハブ類受傷率

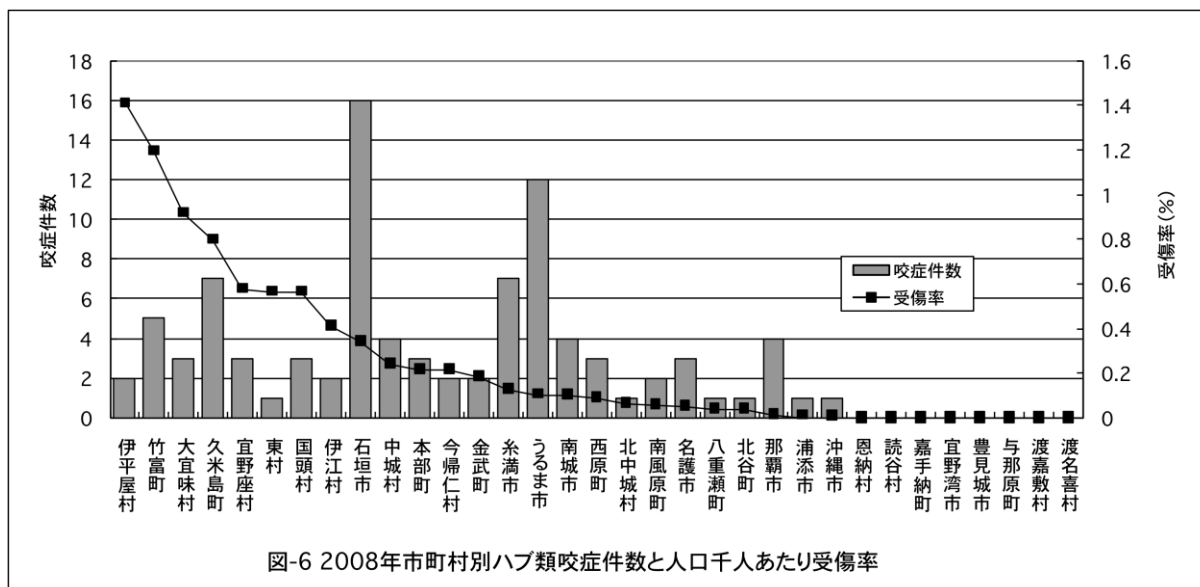


図-6 2008年市町村別ハブ類咬症件数と人口千人あたり受傷率

5. 人口 1000 人あたりの受傷率

ハブ・ヒメハブ・サキシマハブ・タイワンハブの 4 種の咬症患者の合計を市町村別に人口千人あたりの受傷率で見ると、伊平屋村が 1.41 と最も高い。次いで竹富町 1.20、大宜味村 0.92、久米島町 0.80、宜野座村 0.58、東村 0.56、国頭村 0.56 の順になり、人口千人あたり 0.50 以上の市町村が 7 町村あった (表-5、図-5, 6)。

今年は人口の少ない町村で咬症患者が多数発生している。なお竹富町は、例年ほぼ受傷率 1 近くあるいはそれ以上ある。

ハブ類咬症者のいなかった市町村を除くと、受傷率の最も低いのは沖縄市の 0.008 である。これは人口約 13 万人に 1 人の割合になる。ついで浦添市 0.009、那覇市 0.013 と続く。これは市街化が進んだために、住宅面積の割合が多く、山野や耕作地などの緑地面積が少なく、また人口の割に咬症患者が少ないため受傷率が低くなったと考えられる。ハブ類の生息する全市町村の平均は 0.072 で 10 万人に約 7 件である。

6. 毒蛇の種類

沖縄県では、毒蛇による咬傷時に、咬まれた人が咬みついたヘビを目撃するのは咬症者全体のほぼ半数にすぎない。それは、ハブ類咬症のほとんどが見通しの悪い草むらや畑の中、夜間の暗がりの中で起こり、しかも咬んだヘビの多くがすぐ

に逃げてしまうために、確認できないからである。さらに、ヘビを目撃した場合でも多くの人が種類を判別できない。

咬症患者がヘビの種類を確認できない場合は、咬症後の痛みと傷の状態から毒蛇に咬まれたか否かを判断することになる。被害を及ぼす毒蛇が 1 種類のみで八重山地方ではサキシマハブと判断できる。

沖縄本島とその周辺離島でヘビに咬まれ、毒蛇と判断されかつ種類を確認できない場合には、ハブの可能性が最も高い。次いでヒメハブ、アカマタ、ガラスヒバアの可能性がある。

ガラスヒバアは毒蛇であるが、形態的に毒牙が口内の奥にあるために、咬まれても毒が注入されることは稀であると考えられる。またカエルを主な餌とするので水辺に生息し、ネズミを主な餌とし、生息域が人間の生活環境と交錯するハブとは異なり、人間との接触はかなり少ない。そのためこれまで、ガラスヒバアによる記録はない。

アカマタは生息域がハブ類と共通である。攻撃的で、人間を咬むこともあるが、咬まれて種の確認ができない場合でも、傷口が U 字型の多数の歯型からなることと、患部に腫れ、出血、強い痛み症状を伴わないことから無毒蛇と確認できる。

一方、沖縄本島では自然分布しないサキシマハブ、タイワンハブ、タイコブラの 3 種の毒蛇が過去に捕獲されており、糸満ではサキシマハブ、名

護市及び恩納村山田周辺ではタイワンハブが定着している。特にここ数年、糸満市でサキシマハブの増加が確認されており、毎年数人の咬症患者が発生するようになった。タイワンハブも 05、06 年、今年と咬症患者が発生した。治療に関しては、ハブの近縁種であるタイワンハブによる咬症はハブの抗毒素で治療できることが判明している。タイコブラは 1993 年頃に捕獲された以外は 15 年以上目撃及び捕獲がないことから、定着している可能性は少ない。

7. 月別咬症発生件数

ハブ咬症は例年秋に最も多く、次いで初夏に多い。また、冬期のサトウキビ収穫時にも若干増える。

平成 20 年は、ハブ咬症は 10 月が 16 件で最も

多く、9 月 8 件、7 月 7 件、5、11 月 6 件の順であった。ヒメハブ咬症は 10 月 3 件、8 月 2 件、3、4、6 月に各 1 件だった。サキシマハブ咬症は 7 月に 5 件と最も多く、3、5、11 月に 3 件、4、12 月に 2 件だった。(表-6、図-7)。

8. 保健所別咬症件数

ハブ属 4 種合計の保健所別届け出数は、北部福祉保健所の 23 件が最も多く、次いで中部福祉保健所の 22 件、八重山福祉保健所の 21 件、南部福祉保健所の 20 件、中央保健所の 9 件であった(表-7)。

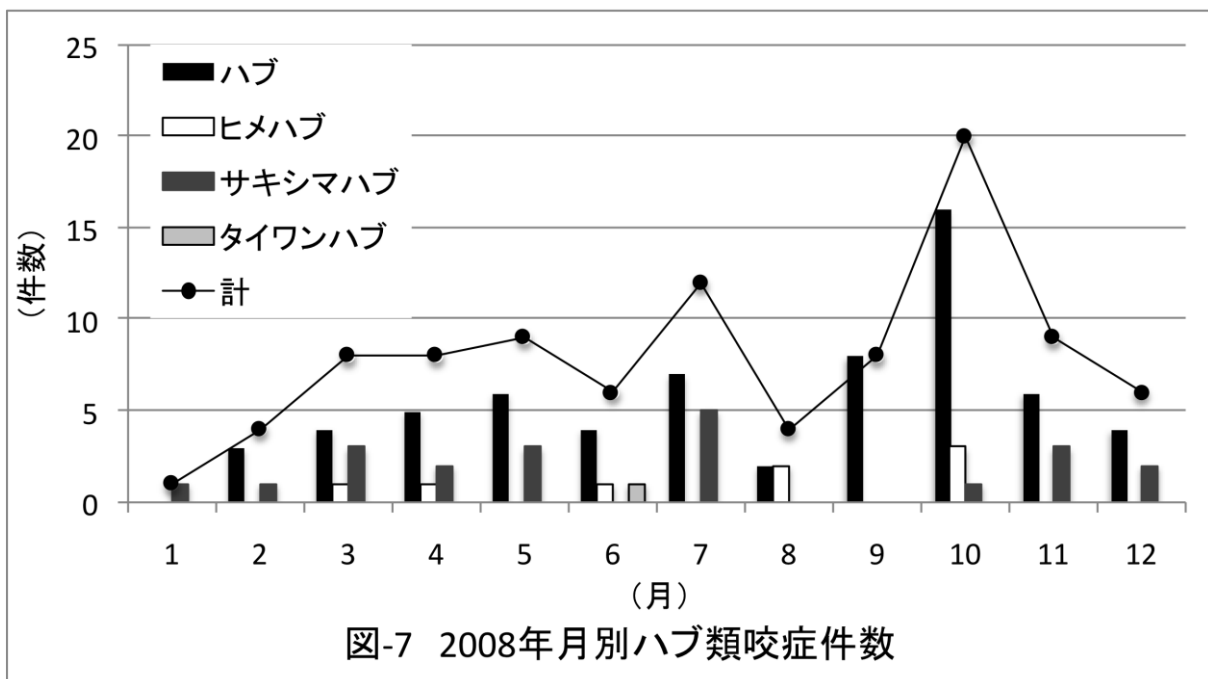


表-6 2008年月別ハブ類咬症件数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ハブ		3	4	5	6	4	7	2	8	16	6	4	65
ヒメハブ			1	1		1		2		3			8
サキシマハブ	1	1	3	2	3		5			1	3	2	21
タイワンハブ						1							1
計	1	4	8	8	9	6	12	4	8	20	9	6	95

表-7 2008年 届出保健所別月別ハブ類咬症件数

保健所	種名\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
北部	ハブ		1	1	1	1	1	2	1	3	3	2		16
	ヒメハブ						1		2		3			6
	台湾ハブ						1							1
	計		1	1	1	1	3	2	3	3	6	2		23
中部	ハブ				1		1	2	1	3	9	2	2	21
	ヒメハブ				1									1
	計				2		1	2	1	3	9	2	2	22
南部	ハブ		2	1	2	3	2	2		1	3	1	2	19
	ヒメハブ			1										1
	計		2	2	2	3	2	2		1	3	1	2	20
中央	ハブ		2	1	2			1		1	1			9
八重山	サキシマハブ	1	1	3	2	3		5			1	3	2	21

9. 場所別の咬症発生件数

ハブ咬症の起こる場所は、例年、最も多い畑が約 40%を占め、屋敷内と家屋内とを合わせて 4分の 1、残りが道路や山林、草地で発生している(図-8、表-8)。

平成 20 年は畑が 22 件 (34%) で、そのうち 55%にあたる 12 件がサトウキビ畑での咬症である。

一方屋内 7 件 (11%) と屋敷内 18 件 (28%) を合わせた屋敷全体で 25 件 (38%) となり、屋敷全体では前述の畑での咬症件数を昨年に引き続き超え、最も多くなった。このように、ここ数年家屋内での被害が増加しており、ハブの侵入を防ぐ対策などの普及に努めることが重要である。

なお残りは道路 11 件 (17%)、山林・草地 5 件 (7%)、その他 2 件 (3%) となった。

ヒメハブ咬症は、屋敷内及び畑各 3 件 (各 38%)、その他 2 件 (25%) であった。

サキシマハブ咬症は、道路 6 件 (29%) と最も多く、次いで畑が 5 件 (24%)、屋敷内及び山林・草地各 4 件 (各 19%)、その他 2 件 (10%) の順だった。

台湾ハブ咬症は屋敷内の 1 件であった。

4 種の合計では畑が 30 件 (32%) で最も多く、次いで家屋内と屋敷内を合わせたもの 26 件 (27%) でそれ以外の合計が 39 件 (41%) であ

った。畑での咬症は前年より減少がみられるが、屋敷全体での咬症は相対的に増加傾向にあり、より一層の対策が必要である。

10. 時刻別咬症件数

ハブが夜行性であるにもかかわらず、ハブ咬症は日中に多い。これは、咬症者の 32%が畑で咬まれており、畑での咬症は農業従事者の労働時間である日中に起こることが多いためである(表-9、10、図-8)。

草地と山林での咬症も人間の活動時間である日中に多い。

道路での咬症は逆に暗い夜間が多い。夜行性であるハブは、道路のようなオープンな場所に日中出现するのはきわめて稀で、ほとんどは、夜間の暗い路上を歩行中、ハブに気付かずに咬まれたものである。

屋敷内および家屋内での咬症は昼夜の差はみられない。これは、夜間に侵入してきたハブに侵入直後に咬まれる場合と、侵入後、物陰に隠れていたハブに日中もしくは夜間に咬まれるためと推測される。

表-8 2008年 場所別咬症件数

場所	ハブ	ヒメ	サシマ	タイワン	計
	ハブ	ハブ	ハブ	ハブ	
屋内	7				7
屋敷	18	3	4	1	26
畑	22	3	5		30
道路	11		6		17
山林草地	5		4		9
その他屋敷外	2	2	2		6
計	65	8	21	1	95

表-9 2008年 動機別咬症件数

動機	ハブ	ヒメ	サシマ	タイワン	計
	ハブ	ハブ	ハブ	ハブ	
就寝中	1				1
用便中	2				2
室内の他の動作	2	1	2		5
通行中	18	1	6		25
キビ刈り中	5		3		8
農作業中	14	2	1		17
草刈り中	9	1	6		16
ハブ扱い中	3	1	1		5
屋外の他の動作	9	2	2	1	14
不明	2				2
計	65	8	21	1	95

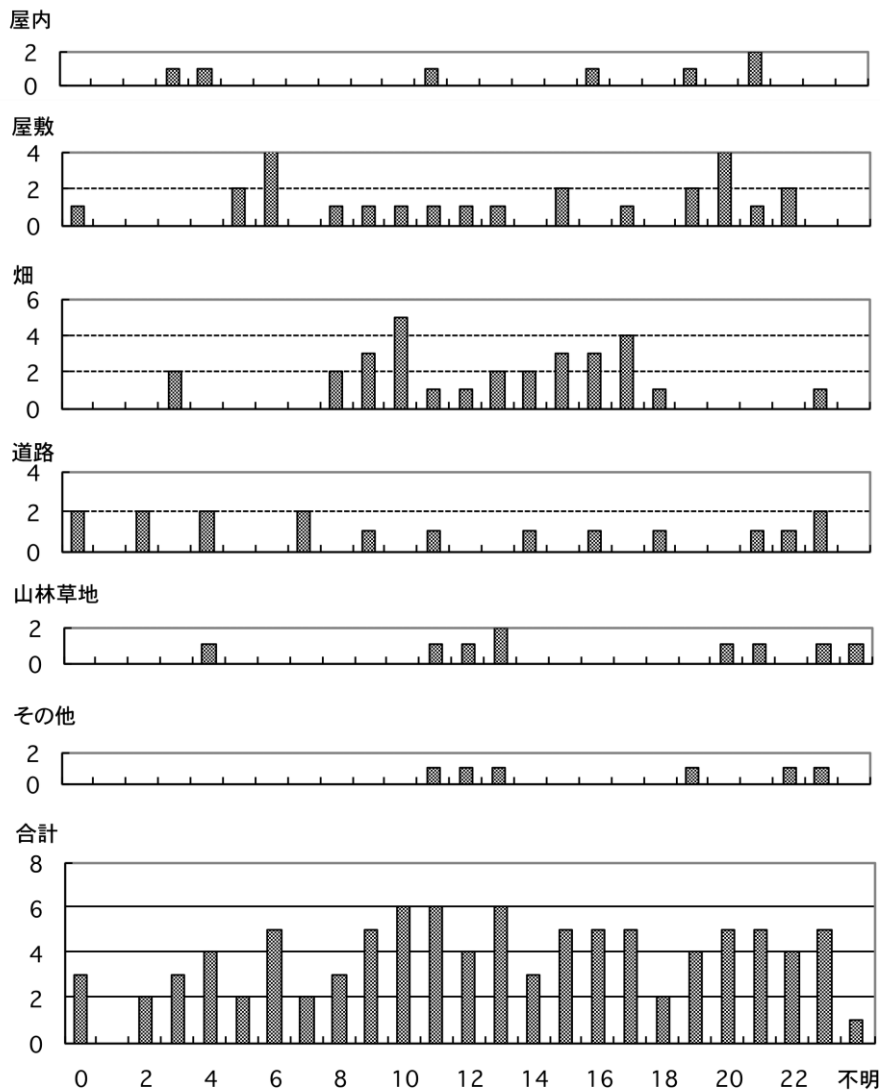


図-8 2008年 時刻別場所別ハブ類咬症件数 (4種計)

表-10 2008年 場所及び時刻別ハブ類咬症件数(四種計)

場所\時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	不明	計
屋内			1	1							1					1			1		2					7
屋敷	1					2	5		1	1	1	1	1	1		2		1		2	4	1	2			26
畑			2						2	3	5	1	1	2	2	3	3	4	1					1		30
道路	2		2		2			2		1		1			1		1		1			1	1	2		17
山林・草地					1							1	1	2							1	1		1	1	9
その他												1	1	1							1		1	1		6
計	3	0	2	3	4	2	5	2	3	5	6	6	4	6	3	5	5	5	2	4	5	5	4	5	1	95

11. 咬症部位

ハブの場合、手指21件(30%)、足が17件(25%)、下腿12件(17%)、足指9件(13%)、手6件(9%)、前腕3件(4%)、頭部1件(2%)であった(表-11、図-9)。

ヒメハブは手指5件(56%)、手3件(33%)、足1件(11%)であった。

サキシマハブは、手指9件(41%)、足6件(27%)、手3件(14%)、上腕・足指各2件(各9%)であった。

なお、一人の患者が複数箇所咬まれている場合があるため、咬症件数とは数字が異なる場合がある。

沖縄県での毒ヘビ咬症は、手足の先端に近い部分を咬まれることが多い。特にサキシマハブとヒメハブは体長が小さいために攻撃距離が短く、咬症部位は身体の末端に限られ、頭部や胴体などをかまれることはほとんどない。

12. 年代別、性別発生件数

4種類の合計でみると、ハブ類咬症の多い年代は50代から70代にかけてである(図-10、表-12)。

咬症患者の性比は、男性79名、女性16名と約5:1で男性が多い。これは咬症者の最も多い、畑での作業者が高齢の男性に多いことに起因する。

咬症患者の最小年齢は14歳の女子で、10月8日の20時頃、自宅の庭を歩行中、左足を2度咬まれた。疼痛・腫脹があり、すぐに病院へ搬送された。血清治療を行うほどの重傷ではなかった。

最高齢は91歳の女性で、6月24日の6時50分頃、自宅で洗顔中に右手の指を咬まれた。咬んだタイワンハブはその場で本人により退治された。疼痛・腫脹あり、すぐに病院に運ばれたが、血清治療するほどではなく、その日のうちに帰宅した。

13. まとめ

沖縄県における平成20年の毒蛇咬症件数は、ハブ65件、ヒメハブ8件、サキシマハブ21件、タイワンハブ1件、ウミヘビ1件の計96件であった。うちハブ類による咬症は95件である。これは昨年に引き続き100件を割った。南部地域は大幅に減少したものの、中部地域での被害が増加したため、結果約10人程度の減少にしかならなかったものと考えられる。

ここ数年、糸満市で起こっているサキシマハブによる咬症及び一昨年からは起こっているタイワンハブによる咬症という外来種による咬症が目立ってきている。その対策を講じなければならない。

表-11 2008年 部位別ハブ類咬症件数

部位\種		ハブ	ヒメ ハブ	サキシマ ハブ	タイワン ハブ	計
手	指	21	5	9	1	36
	前腕	6	3	3		12
	上腕	3				3
	足			2		2
足	指	9		2		11
	下腿	17	1	6		24
	下腿	12				12
頭部		1				1
計		69	9	22	1	101

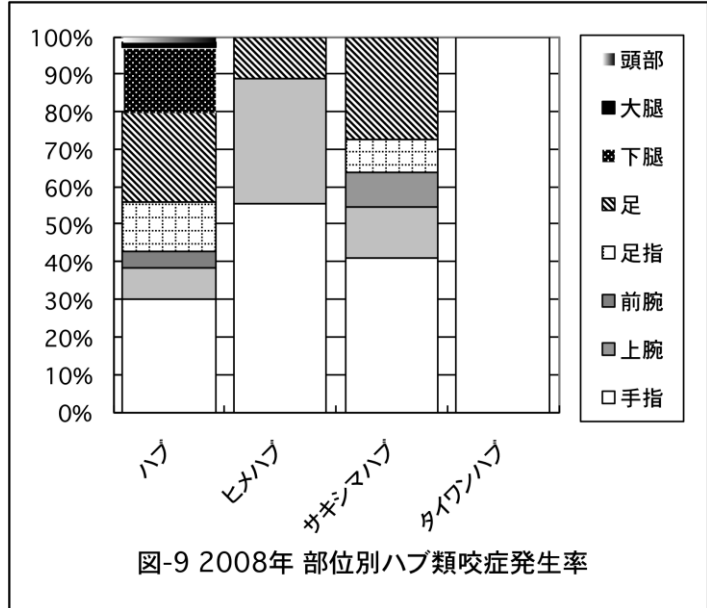


表-12 2008年 年代別ハブ類咬症件数

種類	年代	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	計
ハブ	男	2	4	1	8	14	10	11	3			53
	女	1		4	2		3	2				12
	計	3	4	5	10	14	13	13	3			65
ヒメハブ	男		2			1	2	1				6
	女					1	1					2
	計		2			2	2	2				8
サキシマハブ	男		4	6	1	2	5	2				20
	女						1					1
	計		4	6	1	2	6	2				21
タイワンハブ	男										1	1
	女										1	1
	計										1	1
4種計	男	2	10	7	9	17	17	14	3			79
	女	1		4	2	1	4	3	1			16
	計	3	10	11	11	18	21	17	3	1		95

